

小学五年

国語

解答と解説

	3		2		1	
問三	問一	問六	問一	問七	問六	問一
A	④	⑤	人	三	母	口
誤	イ	エ	工	歳	親	問二
投	③	⑥	問二	か	へ	1
与	ア	ア	イ	ら	の	ウ
の	①	問七	問三	育	興	2
防	ウ	ウ	ア	問八	味	イ
止	問二			ひ		3
(配点)	イ			そ		ア
B				や		問三
安				か		ウ
心				な		問四
43						ア
問四						問五
工						エ
44						27

(配点)

① (問二)	各2点、他各5点	}	計150点
② (問六)	各3点、他各5点		
③ (問一)	各2点、(問五) 8点、他各5点		
④⑤⑥	各2点		

		6		5		4				問六			問五		
⑥	暴	①	保 險	①	ア	①	ウ	問六	分	怖	ば	未			
	63		58		55		51	野	49	に	か	知			
⑦	留	②	貧 富	②	ウ	②	オ	問七	襲	り	の	の			
	64		59		56		52	ア	50	わ	が	分			
⑧	比	③	農 耕	③	イ	③	ア	れ	心	野	野	野			
	65		60		57		53	て	に	の	の	の			
⑨	破	④	提 案	④		④	イ	し	刻	話	話	話			
	66		61				54	ま	ま	で	で	で			
⑩	浅	⑤	車 輪	⑤				っ	れ	は	は	は			
	67		62					た	て	マ	マ	マ			
								か	し	イ	イ	イ			
								ら	ま	ナ	ナ	ナ			
								。	い	ス	ス	ス			
									、	要	要	要			
									恐	因	因	因			

45
46
47
48

【解説】

1 野中ともそ「宇宙でいちばんあかるい屋根」(角川書店)から出題しました。「私」の家族は、ステップファミリーです。平凡だけど穏やかで幸せな家族ですが、それは互いに思いやりや気づかいを欠かさないことでできあがった「努力のたまもの」だと「私」は感じています。

問一 A2 知識 関係づけ

人の会話に途中で入ることを「口をはさむ」、言い流してはつきり言わないことを「口ごもる」といいます。

問二 A1 知識

「道」という字には、1「書道」のように、ある専門分野、2「道中」のように、車や人が通るところ、3「道徳」のように、人としてしなければならぬこと、などの意味があります。

問三 B1 具体・抽象 比較

ママに痛いところをつかれて口ごもってその場をごまかそうとしているパパの姿を見て、目くばせし合っています。仲のいい家族の風景です。「私」は父母のことを「なんだかかなげで可愛」い、と思い「ふたりが大きい」です。「私」が今の家族のこの状態を「たいせつ」にしていることも確認しておきましょう。

問四 B1 理由 比較

——線③の「そのこと」とは、直前の「おたがいを思いやり

：たいせつにすること」です。「気負う」とは今度こそはと張りきること、です。エ「家族として：疲れてしまっている」は「私」が感じていることで、パパやママが感じているとは読み取れません。また、イ「後悔」、ウ「恥ずかしい」などの気持ちも読み取れません。

問五 B1 理由 推論 比較

——線④の直後に「パパがひやひやしながら会話に耳をかたむけている」とあります。パパが「私」の実際の母親の話になりはしないかと心配で気になっていることが読みとれます。また、パパは「娘とひみつを共有する楽しみを、ひそかに味わいたいタイプ」ともあるので、この「ひやひや」する状況を楽しんでいると考えられますので、答えはエです。

問六 B1 具体・抽象

——線⑤の後で、「私」が書道をはじめた理由を、「知りたかったのだ。実の母親が夢中になったことが何なのか」としています。ですから、「母親のことを知りたい」と同じ意味の六字の言葉を探しましょう。

問七 B1 理由 関係づけ

——線⑥の二文後に、「ママには自信があるのだ」とあり、——線⑥の理由を説明しています。どのような自信かはさらにその後の文で「私を三歳から育てたという絶大な自信」と説明されています。

問八

B1 具体・抽象 関係づけ

自らの家族のことを、「家族のだんらん図が織られたタペストリー」と言っているように、「私」は自身の家族を、そこにあるもの、ではなく全員が互いを「気づかい、いたわりあいながら」「気をつけて、ていねいに。」つくりあげたもの、というようにとらえていることがわかります。これは、——線②の八文後にも「それは、私たちのひそやかな努力のたまものでもあるのだ。」という表現で示されています。皆がお互いに気づかいあいながら、「なごやかで平和な家族」というものを「ひそやか」に「努力」して作り上げていると感じ、「私」は「疲れてしまう」のです。

2

榎本博明の「伸びる子どもは〇〇がすごい」（日本経済新聞出版本部）から出題しました。今後AIは人々の生活や

仕事を大きく変えると言われています。AIにとつてかわられないよう、人間はどんな能力を伸ばすべきなのか、そして、その能力はどうすれば育つのか、という文章は昨今多く見られます。筆者は、自然体験や、人間関係を豊かに経験し、その体験に基づき「想像力を働かせ、未知の世界をより深くイメージできる力」を伸ばすことが大切だと考えています。そして、その「実体験に基づいた論理的な推論力」というのは、豊かな「感性」や「人間関係能力」、「文章の意味の読解力」といったAIが苦手とする分野を磨くことにもつながっているのです。

問一

A2 知識 置換

AIは「artificial intelligence」の略で、人工知能のことです。

人間にしかできなかったような知的な作業や判断がコンピューターで行えるようになりました。

問二

A2 関係づけ 知識

文を接続する言葉は、前後の文の関係をよく確認して入れます。①の前で「AIの苦手なこと」とあり、後で「意味を深く理解できるようにすること」とあるので、言いかえの「つまり」が入ります。②の前では「実体験に基づいた論理的な推論力がないと、AIを超えることはできません」とあり、後で「人間はリアルな実体験を積み、深く推論できる力を伸ばすことが重要だ」とあるので、順接の「ゆえに」が入ります。

問三

B1 理由 比較

——線②のような質問は、自分の持っている知識から、当時の市はどんなものだったのかを想像した上論理的に考えて答えを出す必要があります。こうすることができると「言葉の意味を理解している」ということです。

問四

B1 具体・抽象 関係づけ

「言葉の意味を理解している」わけではない「東ロボくん」が、「高校3年生の上位2割」の成績をおさめるということが、高校生たちの「言葉の意味」の理解に問題があることがわかります。また、——線③の後にも、子どもたちの読解力が低いことが示されています。この「言葉の意味を理解」する力を九字で言い換えた表現を文中から探しましょう。

問五 **B1** 置換

「実体験に基づいた論理的な推論力」というのは、「リアルな実体験を積み、深く推論できる力」という表現でも言い換えられています。「実体験」・「深く推論できる」という言葉に注目して、言い換えの表現を探しましょう。

問六 **B1** 関係つけ

⑤を含む一文をよく読むと、「やはり」とあります。その前から「必要」と言われているものは何か考えましょう。また直後にも「そのためにも…自然体験を豊富にすること…が大切となる」とあることから、ここには「実体験」が入ります。⑥を含む一文を読むと、「それによって…言語能力や感性が磨かれる」とあるので、ここには「言語能力」に関係する言葉が入ります。

問七 **B1** 具体・抽象 比較

線⑦を含む一文を読むと、昔の子どもたちが、あたりまえに経験していたようなことが「とても意味のあること」とありますが、この「意味」というのは、自然体験を通して、「集中力や自発性が身につく」、「言語能力や感性が磨かれる」とを指しています。つまり、「かつての子どもたちが自然に経験していたようなこと」とは、自然体験を豊富にすることです。

③ 神津カンナの「冷蔵庫が壊れた日」(ワック株式会社) から

出題しました。父の入院を通して気づいた、本来の目的を見失ったように運用されるマニュアル、相手の状況や気持ちを十分に

想像せずになされる徹底的な情報開示というものの問題点が書かれています。

問一 **A2** 関係つけ 知識

文を接続する言葉は、前後の文の関係をよく確認して入れましょう。① 看護師が父に名前の確認を求め、父が名前を確認する、という流れですから、順接の「それで」が入ります。② の前では、患者側が本人確認できる状態でない時の例が書かれており、後で患者側では確認しようもない、根本的な問題が書かれていますので、「そもそも」が入ります。③ の前では、「気分は楽だったけれど」、後で「…父もいささか落ち込んだ」とあるので、逆接の「それでも」が入ります。

問二 **B1** 具体・抽象 比較

線①を含む一文を読むと「個別の病院を云々したいのではなく」とあるので、ア「父の入院した病院は、組織としては問題があった」は不適切です。

問三 **B1** 理由 関係つけ

線②の二段落後に、「本人確認マニュアル」に対する筆者の見解が書かれています。

問四 **B1** 具体・抽象 比較

この場合の「ルーティーン」とは、習慣的かつ決まった流れでやる仕事のことです。毎日同じように決まった流れで「本人確認」を何回もやるうちに、寝ぼけている患者を相手

に確認をとるような、本来の目的を失っているというよう
 ことがあるのですよね。ア「マニュアルは複雑」、イ「本人
 確認するのを忘れてしまいがち」ウ「本人確認をしたり：
 余裕がなくなってしまう」などの表現が不適切です。

問五

B2 理由 関係づけ

きちんとリスクが「数値で示される」にもかかわらず、「落
 ち込んだ」のは、「マイナス要因の数値の方が頭に残った」
 からです。なぜそうなってしまうかという点、「未知の分野
 の話」だからです。①未知の分野の話聞きマイナス要因が
 心に刻まれたこと、②そのため恐怖に襲われた、この二点を
 押さえて解答を完成させましょう。

※ 設問の指示や字数・文字指定に従っていないものは不正解
 とします。ただし、誤字脱字が一つの場合は減点1点、二つ
 ある場合は減点2点、それ以上は不正解とします。また解答
 の説明に過不足がある場合は減点3点とします。

問六

B1 置換

——線⑤を含む一文を読むと、「自分のいささか知っている
 フィールドであれば：未知の分野の話では：」と対比の形で
 示されていることに注意しましょう。

問七

B1 推論 具体・抽象

本文をよく読み、選択肢と突き合わせながら考えましょう。
 この文章の場合、筆者の意見は本文の最後に示されています。

4

A1 知識

慣用句の問題です。以下にそれぞれの意味を記します。

- ① 引く手あまた…さそってくる人が多い様子。(ウ 人目を引く…目立っていて人の注意を引く。)
 - ② 目に余る…だまって見過ごすことができないほどひどい。(オ 手に余る…自分の力ではどうすることもできない。)
 - ③ 出る幕ではない…出て何かしたり口出ししたりするときではない。(ア 本が出る…出版される。)
 - ④ 棚にあげる…わざとふれないでおく。(イ 音をあげる…参る。降参する。)
- エは「丁寧にきちんと説明する」という意味になるので、「言葉を『つくす』」です。

5

A1 知識

助詞・助動詞の意味・用法の問題です。敬語や主語・述語・修飾語と並んでよく出題される形式の文法問題です。

- ① 例は「しかし」に置き換え可能な逆接の「が」です。イは「そして」に置き換え可能な並立の「が」で、ウは主語を示す「が」です。
- ② 例は、他から何かを「される」という、受身の「られる」です。アは目上の人を使う、尊敬の「られる」で、イは「～することができる」という可能の「られる」です。
- ③ 例は、並行する動作を示す「ながら」です。「同時に」という言葉を補い、「スマホを見ながら同時に歩く」という形にすることができます。アは「生まれながらの(↓生まれのままの)」に置き換え可能な「ながら」で、ウは「残念ながらしかし参加できません」とできるので、逆接の「ながら」です。